

6月定例会

一

般

質

問

6月定例会では15人の議員が市政に対する一般質問を行いました。

今号では各議員による複数の質問の中から一部を選んで掲載しています。

一般質問とは、議員が高山市政全般にわたり、事務執行の状況及び将来に対する方針などについて所信を質すとともに、報告、説明を求め疑問を質すものです。

質問のみで1人40分。質問回数は制限なしとしています。※反問に要した質問及び答弁の時間は持ち時間に含めません。

質問と答弁がかみ合うことで分かりやすく充実した議論となるよう、原則としてあらかじめ通告しておくこととなっています。

P16右下の二次元コードから高山市議会YouTubeにて各議員の一般質問をご覧ください。（タブレット・スマートフォンに対応。通信料は別途発生します。）

地域資源を活かした地熱発電の可能性と地域戦略について

みんなで未来をつくる会

丸山 純平



問 市では小水力発電や木質バイオマスの活用が進む中、奥飛騨温泉郷などの地域特性を活かした地熱発電にも可能性があると考えます。地熱発電について、他の再生可能エネルギーと比較した場合の特徴や優位性、課題は。また、地熱発電を単なる発電事業としてではなく、持続可能な地域づくりや観光振興につながる地域資源として捉え、地域ブランドの形成や地域戦略に活かしていく考えはあるか。

答 地熱発電は天候の影響を受けにくく安定した発電が可能であり、小水力発電や木質バイオマスと比較しても発電能力の非常に高い、有用な再生可能エネルギーの一つと認識している。一方で、調査や掘削に多額の費用を要することや、温泉資源への影響などが課題である。奥飛騨温泉郷は地熱資源に恵まれた地域であり、地熱発電の活用可能性を有している。自然エネルギーを活用した地域振興やブランド形成につなげていく視点も大切だが、地域住民との合意形成を図りながら進めていくことが重要である。



労働力確保とワークダイバーシティについて

みんなで未来をつくる会

益田 大輔



問 ひきこもり状態にある方や、障がいのグレーゾーン、長期ブランクなどで就労に困難を抱える方を、「まだ活躍できていない人材」と捉え、地域の労働力として迎え入れるワークダイバーシティ施策について、市の考えは。

答 人口減少や人手不足が進む中、それぞれの能力や特性に応じて地域で活躍できる環境づくりは重要である。重層的支援体制整備事業を活用し、相談支援、社会参加支援、アウトリーチによる支援を一体的に行い、就労につながる機会となるよう進める。



地域住民の安心・安全な生活環境を守れ

高山市議会公明党

山腰 恵一



問 民泊・簡易宿所は、騒音やゴミの放置、迷惑駐車などの問題があり、住民の生活環境を脅かす事案がある。県や市は苦情や問題の相談窓口を設けているが、個人では通報しづらい声もあるため、地域や町内会等からの苦情や問題を集約し対応できる体制が必要では。

答 民泊・簡易宿所を所管する県庁担当課および飛騨保健所と高山市の関係課による会議体を発足し、課題の共有や改善に向けた具体的な取組を共同で協議している。地域の皆様や町内会などからの苦情を集約し対応できる体制の整備について検討を進める。

